赤平幼稚園入園児募集

令和２年４月からの入園児を募集します。

募集区分	下記期間に生まれた幼児			募集人数（※）
３歳児	平成28年 ４月２日	～	平成29年 ４月１日	30人
４歳児	平成27年 ４月２日	～	平成28年 ４月１日	23人
５歳児	平成26年 ４月２日	～	平成27年 ４月１日	16人

※募集人数を超えた場合は選考となります。

入園許可申請書

配布場所及び期間

赤平幼稚園（幌岡町113番地）
１月20日㈪～22日㈬
９時～15時

提出先（面接場所）及び期間

赤平幼稚園
２月６日㈭～７日㈮

詳しくは、入園許可申請書配布の際に説明しますが、ご不明な場合はお問い合わせください。

問合せ
赤平幼稚園　☎32-2416

預かり保育

保護者が就労している場合など、預かり保育を実施しています。

利用料金　日額200円、月額上限4,000円

※社会福祉課から保育の必要性の認定（新２号）を受けた場合は無償となります。

モバイル型緊急通報システム

市では、急病や災害などの緊急時に簡単な操作で通報ができ、外出時にも持ち運びが可能な「モバイル型緊急通報システム」を貸し出しています。（有償貸与）

←見本

システムの特徴

◍持ち運び可能

携帯電話会社のａｕ社が提供するサービスエリア内であれば屋内・屋外問わず使用でき、必要に応じてＧＰＳで位置情報を取得できます。

◍設置工事不要

携帯電話・スマートフォンと同じように充電して利用します。

◍24時間365日対応

通報は委託先事業者のコールセンターにつながり、看護師などの資格を有するオペレーターが対応、必要な場合は救急車などの出動を要請します。

貸与対象者

市内居住者で、健康状態や身体状況などから日常生活に不安を抱える、次のいずれかに該当する方

①在宅でおおむね65歳以上のひとり暮らし高齢者または高齢者のみの世帯の方
②身体障害者１～２級または要支援・要介護に認定された方のみの世帯の方
③そのほか、特に貸与が必要と認められる方

※協力員として原則２名以上の方を登録いただく必要があります。

費用の負担

月額1,000円を利用者負担としてお支払いいただきます。

コールセンターから月に一度、利用者の方の安否を確認する「お伺い電話」があります。

問合せ
地域福祉係
☎32-2216

第39回
全国中学生人権作文コンテスト滝川地区大会

滝川支局
奨励賞　受賞

人権尊重の重要性、必要性についての理解を深め、豊かな人権感覚を身につけることを目的に行われる本大会。札幌法務局滝川支局管内の全14校から274作品の応募がありました。

そのなかで、赤平中学校３年生の髙橋 加恋さんが奨励賞を受賞されましたのでご紹介します。

「高齢者差別について」　赤平中学校3年　髙橋 加恋 さん

今、人生百年時代と呼ばれるほど高齢化が進んでいます。

ネットで、「高齢者への差別やリストラが目立つ。人生百年時代と言われながら、職場では高年労働者の活躍の場が減っている。」この現状の矛盾を解消して年齢差別をなくすには、どうすれば良いのだろうか。」と、のっていたのを見て、そこで日本でも高齢化が進む中、若者からの高齢者に対する差別、暴力が増えていってしまうのではないかと思い高齢者差別について書こうと思いました。

日本では、まだ差別が少ない方ですが海外では多くあります。ＩＢＭが過去五年間で約二万人もの高年労働者（四十歳以上）を密かに追い出していたなど、たくさん起きていました。シリコンバレーの大手百五十社が過去十年間で直面した告発は人種差別、性差別を上回っていました。

海外では、この差別問題に関して他分野よりも改善が進んでいません。

今年八月には日本で六十歳以上の人が部屋を借りようとするとダメと言われたり、60歳からスマホを使うのは無理とスマホ会社の人に言われたり、相手にされないとニュースで報道されていました。以前にも問題になっていた高齢者からの免許の取り上げなどもありました。

私は今まで、高齢者差別よりも幼児虐待などの方が多くニュースにあげられているのを見てきました。しかし、私達がおじいちゃんやおばあちゃんになる頃には子どもが少なく三人に一人が高齢者になっていて、そのことが今よりも大きく報道されていると思います。

仕事では、看護師や介護士が減っていくのではないかと言われています。なぜかというと、看護師や介護士は給料が低い方で働く人が減っています。減っていってしまうと、高齢の人やいろいろな人が困ってしまうと言われていますが、高齢になってもまだまだ働いていたいと思う高齢の人が多いですが今の若者は定年をすぎたら家でゆっくりしていたいという人が増えてきています。今の社会は高齢者にとっても若者にとっても、働きづらくなってきていると感じました。

高齢化が進んでいってしまうことは、どうにもできませんが一人一人が助け合っていけば差別などは、なくなると思います。高齢者の方々がきらいだと思う人だけでなく、高齢者を助けたいという人たちもたくさんいます。

高齢の人が暮らしやすいような街を作ったりスマホでも高齢から始められるものなど、高齢者のことを考えてできた物もたくさんあります。このように、高齢者が住みやすい、働きやすいようになっていくと、日本よりも高齢者差別が進んでいる海外で少しでも高齢者のことを思ってくれる人が増えていって、日本でも海外でも高齢者差別が減っていくのではないかと考えます。